

別紙 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No	ページ 該当	項目	意見（要旨）	意見に対する考え方	意見の採択 により修正し た箇所	原文の修正内容	
						修正前	修正後
1	－	プランの内容について	国の「食料・農業・農村基本法」や新たな「食料・農業・農村基本計画」、「土地改良法」の改正や新たな「土地改良長期計画」、「第1次国土強靱化実施中期計画」、さらには、「みどり戦略」など、様々な事項を踏まえて新たなプランを策定していることが感じられる。 本プランに基づいて、くまの農業農村整備を計画的、かつ、積極的に進めてもらいたいと思う。	ご意見のとおり、本計画に基づき、「ともに未来へつなぐ！豊かな農業と安全・安心な農村」の実現を目指して、くまの農業農村整備を計画的、かつ、積極的に推進してまいります。	無		
2	－	全体的な文章構成について	段落を意識して、「また」「このため」等の箇所では改行したほうが、見やすく、読みやすくなると思う。	見やすく、読みやすい構成とすることはとても重要であると認識しております。つきましては、いただいたご意見を参考に、原文を一部修正いたします。	有	<p>(原案_P15) 農業経営の安定化と収益力の向上を図るために、農地の区画拡大などの生産基盤整備を実施するとともに、意欲ある担い手への農地集積・集約化を推進します。また、農業生産の環境を整えるための地域の需要に対応した生産基盤整備も実施し、生産性を高める農業を推進します。</p> <p>(原案_P16) 将来にわたって農業用水を安定供給するためには、既存の農業水利施設の長寿命化と、土地改良区における施設の日常管理に加えて、豪雨、濁水及び突発事故等の緊急時に迅速かつ適切に対応できる管理体制の構築が不可欠です。このため、老朽化が進む農業水利施設の計画的かつ適切な保全対策を実施するとともに、土地改良区の運営基盤の強化を推進します。</p> <p>(原案_P17) 近年、激甚化・頻発化している豪雨や地震などの自然災害により、農業用ため池の決壊など農業水利施設等による甚大な被害が発生しています。このため、農業水利施設等における必要な防災対策を講じ強靱化することで、被害の防止・軽減を図り、安全・安心な農村づくりを推進します。</p> <p>(原案_P19) 農村における人口減少などの進行により、地域の共同活動や農業生産活動等の継続が困難となり、農業・農村が持つ多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。このため、将来にわたって多面的機能を適切に維持・発揮できるよう、地域活動の継続への支援や地域資源の保全管理を推進します。また、農村の生活環境の保全管理にも取り組み、暮らしやすい環境づくりを推進します。</p>	<p>※「また」、「このため」等の接続詞で改行</p> <p>(原案_P15) 農業経営の安定化と収益力の向上を図るために、農地の区画拡大などの生産基盤整備を実施するとともに、意欲ある担い手への農地集積・集約化を推進します。 また、農業生産の環境を整えるための地域のニーズに対応した生産基盤整備も実施し、生産性を高める農業を推進します。</p> <p>(原案_P16) 将来にわたって農業用水を安定供給するためには、既存の農業水利施設の長寿命化と土地改良区における施設の日常管理に加えて、豪雨、濁水及び突発事故等の緊急時に迅速かつ的確に対応できる管理体制の構築が不可欠です。このため、老朽化が進む農業水利施設の計画的かつ適切な保全対策を実施するとともに、土地改良区の運営基盤の強化を推進します。</p> <p>(原案_P17) 近年、豪雨や地震などによる自然災害の激甚化・頻発化により、農業用ため池の決壊をはじめとする農業水利施設等への甚大な被害が発生しています。 このため、農業水利施設等における必要な防災対策を計画的に講じ、強靱化することで、被害の防止・軽減を図り、安全・安心な農村づくりを推進します。</p> <p>(原案_P19) 農村における人口減少などの進行により、地域の共同活動や農業生産活動等の継続が困難となり、農業・農村が有する多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。 このため、将来にわたって多面的機能を適切に維持・発揮できるよう、地域活動の継続への支援や地域資源の保全管理を推進します。 また、農村の生活環境の保全管理にも取り組み、暮らしやすい環境づくりを推進します。</p>

別紙 提出された意見の概要及び意見に対する考え方

No	ページ	項目	意見（要旨）	意見に対する考え方	意見の採択により修正した箇所	原文の修正内容	
						修正前	修正後
3	9	【第1章 本県の農業・農村の情勢と課題】 7 地域の共同活動による農地・農業水利施設等の保全について	「多面的機能支払交付金」は、平成19年度当時は「農地水」であったため、平成19年度から「多面的機能支払交付金」を活用し→平成19年度から「多面的機能支払交付金」等を活用しなどとしたらよいのではないか。	「多面的機能支払交付金」の記載について、平成19年度当時は、「農地・水・環境保全向上対策」であったことから、『平成19年度から「多面的機能支払交付金」等を活用し』に修正いたします。	有	(原案_P9) 平成19年度から「多面的機能支払交付金」を活用し、農業者と地域住民が協力して、地域の共同活動に取り組む活動組織を支援しています。	(原案_P9) 平成19年度から「多面的機能支払交付金」等を活用し、農業者と地域住民が協力して、地域の共同活動に取り組む活動組織を支援しています。
4	30	【第5章 地域の重点取組】 西部地域について	鍋川用水（高崎市）とあるが、高崎市という表記でよいのか。	鍋川用水は高崎市・藤岡市・富岡市・下仁田町・甘楽町にまたがる農業水利施設です。 文書中の「鍋川用水（高崎市）」については、対策予定所在地を表記したのですが、高崎市内のみに位置する農業水利施設であるような誤解を与える表現であったため、（高崎市）の表記は削除いたします。	有	(原案_P30) 鍋川用水（高崎市）、甘楽多野用水（富岡市）、中村堰（藤岡市）等において、老朽化が進行している基幹農業水利施設について、関係者と協議し計画的に保全対策を進め、農業用水の安定供給を図ります。	(原案_P30) 鍋川用水、甘楽多野用水、中村堰等において、老朽化が進行している基幹農業水利施設について、関係者と協議し計画的に保全対策を進め、農業用水の安定供給を図ります。
5	4	【第1章 本県の農業・農村の情勢と課題】 2 農業経営体の面積規模及び担い手への農地集積について	令和6年の担い手への農地集積率は44%で全国平均の62%を下回っている。農地集積を加速させ、経営規模の拡大を図る必要があるが、全国平均を下回っている原因を追求し、せめて全国平均は一日も早く到達すべき。効率的な営農環境を整える必要性について、もっと説得力のあるPRを考える必要があるのでは。	本県の農地集積率について、全国平均を下回っている状況は重要な課題であると認識しています。狭小で不整形な区画、用排水路の未整備などの営農条件は、担い手への農地集積を阻害する原因になります。そのため、今後これらを解消するための生産基盤整備を推進し、これを契機として担い手への農地集積を進めてまいります。 また、効率的な営農が可能となる生産基盤整備の重要性について、より分かりやすく県民に伝わるよう情報発信にも努めてまいります。	無		
6	10	【第1章 本県の農業・農村の情勢と課題】 8 環境負荷低減と有機農業推進について	有機農業などの環境保全型農業への取組みはさらに広がると思う。CO2排出量削減で再生可能エネルギー、小水力発電など導入促進を進める必要があり、地域のエネルギー有効活用を真剣に考えなくてはと思う。また、除草剤はまかないのが一番良いと思うが、人間、生産物に無毒の除草剤開発にも力を入れるべきである。これからは有機農業の時代であり、真剣に対応すべき。県でもPRをすべき。	CO2排出量削減に向けては、小水力発電などをはじめとする再生可能エネルギーの利活用について、農村地域においても重要な取組であると認識しております。県では、今後とも農業用水等を活用した再生可能エネルギーの導入やエネルギーの有効利用につながる取組を推進し、CO2排出量の抑制に寄与してまいります。 また、有機農業の取組については、関係各課と連携し、有機農業に取り組みやすい環境整備を推進してまいります。	無		